2022年度活動概要　　授業学（中部）研究会

授業学研究会(中部)は今年度昨年度から行ってきた分析の継続と新しく異文化理解の授業分析を中心に行ってきました。

バーチャルクラスルームで学生のプレゼンテーションを見るという体験に対してどのような反応をするかということを理系と文系の大学生を対象に実施し、その感想を分析したところかなり異なった視点でプレゼンテーションやバーチャル環境を捉えていたことが分かった。この成果については日本教育工学会（JSET）の 2022 年度秋季全国大会（第 41 回）にて Comparison Between Novice and Intermediate Students in Asynchronous Presentations Using a Virtual Classroom としてポスター発表を行った。

異文化理解の授業分析では岐阜大学の「異文化論（リトアニア学）」を対象に受講開始時と受講最終回に異文化に関するアンケート調査を行い、その比較を行った。全体的に異なったものを受容する姿勢が育成され、授業目標に関して一定の効果を上げることができた。この研究内容に関しては JACET の第 5 回 JAAL in JACET（日本応用言語学会）学術交流集会（2022）にて研究発表を行った。

上記の研究活動に加え、認知科学の知見を授業へ応用する「学習科学」に関する研究も研究会で行い、その成果を英語授業へ応用する研究も引き続き行っている。このことに関しては 2023 年度より認知科学の考え方を英語ライティング指導へつなげる研究で集中的に行っていきたいと考えている。

また今まで研究会は少ない参加者で行っていたが今年度後半研究会活動に関心をもって参加してくれる人も増えた。来年度さらに活動の認知度が上がるようにできるだけ多くの機会で研究発表を行っていきたいと考えている。